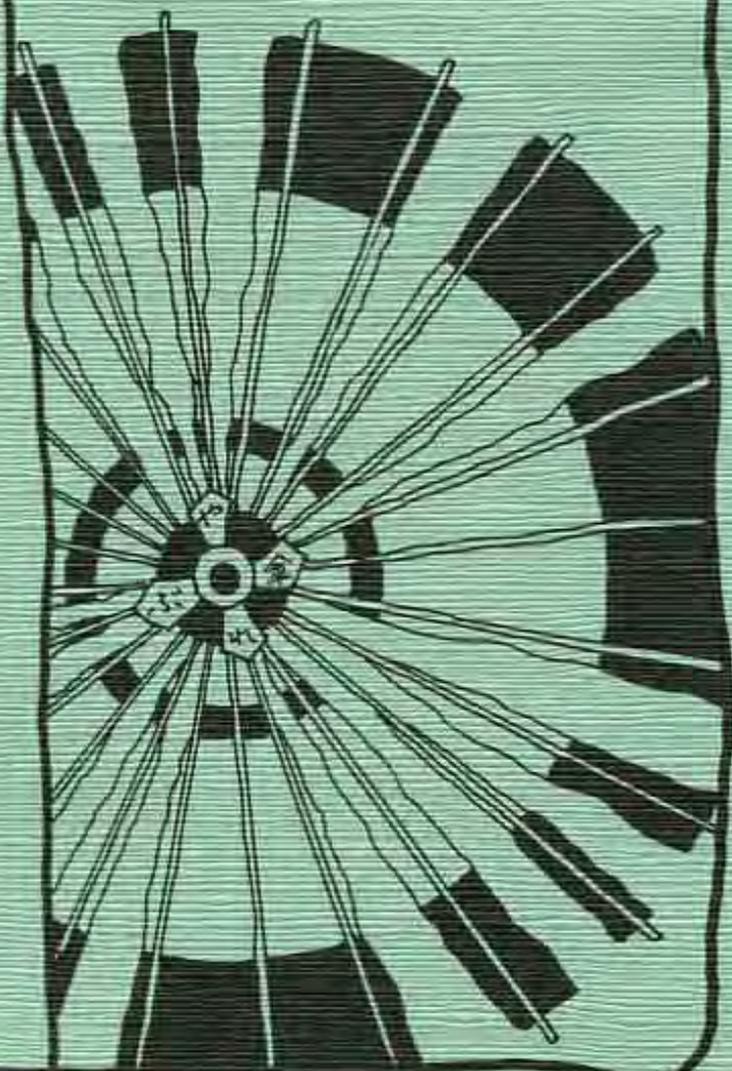


# やぶれ傘



七十六号

〇一四年二月

湯豆腐に振つて普光寺の七味	根橋宏次
いささかの竹藪いささかの冬陽	大島英昭
白梅や平屋を囲む石の塀	きくちきみえ
山茶花や土塀の続く道を来て	丑久保 勲
グライダー寒九の空にひかりけり	白石正躬
料理屋の火鉢に席を待ちみたる	安藤久美子
檻にゐる熊と目の遇ふ寒の入り	瀬島洒望
田のひとつまること冬の日向かな	廣瀬雅男
段々を登り日向の花八つ手	渡邊孝彦
入浴剤シユワツと溶けて外は雪	藤井美晴
ふところの中にも雪が湯もみ唄	秋葉貞子
温泉の素匂ひ立つ初湯かな	久世孝雄
埋火やいつしか肩の触れ合ひて	石原健二
通り一つ隔てて生家初御空	國保八江
獅子舞の鉦はサンバに似たるかな	小山陽子

抄 集 句 傘 れ ぶ や  
選 夫 紀 崎 大

雪の降る枕木の道行きにけり	有賀昌子
きよろきよろと胸に抱かるる冬帽子	松村光典
すずしろの小さき七草セツト買ふ	大野芳久
家の鳴る音を聞き入る霜の夜	岡田香緒里
雪催ひ部屋いつばいに産着干し	上林富子
ミシン踏む母がゐるやう小六月	買井照子
縁側にピッケル磨く小春かな	野口希代志
初詣規制の綱の上下する	橋本美代
寝静まる家々てらす冬の月	松本善一
ほくほくのかほちやほほぼる冬至かな	森美佐子
達磨市千の達磨のひとつ買ふ	山本千夏
母と乗る福祉タクシー枯木道	湯本 実
甦起し石の浜には石の音	青谷小枝
端切れの布でお手玉春隣	天野美登里
数の子を嘯む音ピチと耳にはね	安斉正蔵

狛 犬

大崎 紀夫

内海に狛銃の音ひびきけり  
土手越えてより風花のゆるやかに  
狛犬の下向きしまますれちがふ  
陸橋で風花とすれちがひけり  
神無月舟屋に舟の艫が見え

ライオンの地に伸びる尾や冬日向  
山とほく雲とほくゆく冬至かな  
竹馬の石畳へとあがりけり  
裏庭の方へ鶏ゆく花八ツ手  
うつせ貝の二つ三つ四つ日脚のぶ  
凍蝶の翅ふるへみる先に川  
おしどりの水輪に月のひかりかな

七  
味

根橋宏次

湯豆腐に振つて善光寺の七味  
綿虫やボウルに買つてくる豆腐  
猫のゐてにはとりのゐて枇杷の花  
湯豆腐の煮えくり返りゐるかけら  
店裏の方が明るしきりたんぽ  
初声は烏のものと聞きながす  
元日や雨戸くる音階下より  
左義長を火の粉かからぬところより  
蠟梅や乾きし土の端めくれ  
風花や斜めに渡る交差点

魯文の墓

大島英昭

佇ちみれば木の葉に埋もれゆくやうな  
界限のにぎはひ鉢の冬珊瑚  
大方はずち雲北風となりにけり  
ひと鳴きで鶉の飛び去る寒の入り  
寒中の仮名垣魯文眠る墓  
参道に寒のひと日の暮れにけり  
いささかの竹藪いささかの冬陽  
積み砂利に道は終はれり枯れ葎  
葱畑にシャベル真つすぐ立つてゐる  
門口に幣挿してある寒雀

独 楽

きくちきみえ

黄身ホロと崩れおでんの茹たまご  
お歳暮のテープが上手く剥がせない  
くしやくしやくに空映しぬる冬の川  
十二月ピザのチーズの伸びにのび  
赤ん坊に噛まれてゐたる木地の独楽  
氷柱打つ音のするほど折れぬほど  
白梅や平屋を囲む石の塀  
煮ごごりの揺れる固さでありにけり  
湯たんぽのすでにありたる寢床かな  
借家みな同じ扉や松飾り

石庭

丑久保勲

山茶花や土塀の続く道を来て  
短日や舞妓の垂らす髪飾り  
コンパスに小さき鉛筆年新た  
爪先で糊づけはがす初御籤  
中京を地図みて歩く寒の入り  
コックスのこゑを聞きゐる寒九かな  
門口に空のどんぶり雪催  
鉄瓶の蓋はねてゐる春隣  
石庭の波の平らか実千両  
すれ違ふひとの眼鏡に冬の空

鏡餅

白石正躬

川底に小砂利の見える小春かな  
初冬の音立ててゐる堰の水  
強霜の野に犬放つあかね雲  
石ひとつ放らば動く鴨の陣  
夕闇は川風とくる冬の川  
菊を焚く煙を流すほどの風  
北風の雑木林に入りし音  
帰りきてほこりの目立つ鏡餅  
朝月や焚火の煙のぼりゐて  
グライダー寒九の空にひかりけり

火鉢

安藤久美子

冬ぬくし異人館へと上る坂  
屋島かな瓦投げする冬日和  
何時となく時雨きてゐる神楽坂  
仏壇へ陽の届きたる冬至かな  
天窓の明かりが鍋の煮凝りに  
大根の料理や首と葉としつぽ  
坂上り詰めたる社龍の玉  
料理屋の火鉢に席を待ちゐたる  
笊盛りの魚に雪のちらほらと  
落人の里や氷柱は伸び盛り

熊

瀬島洒望

一人用鍋に湯豆腐煮立ちけり  
ジーパーンの破れに素肌小六月  
畳屋のチラシの混じる師走かな  
門口の枯れし狗<sup>え</sup>尾<sup>こ</sup>草<sup>ろ</sup>跨ぎけり  
焚き火しして白の仕度をしてゐたり  
聊かには角取れたかと初鏡  
福達磨売り値尋ぬるひとのゐて  
河馬の檻洗ふマスクの飼育員  
檻にゐる熊と目の遇ふ寒の入り  
ワンコイン定食に牡蠣フライかな

冬の日向

廣瀬雅男

蓮の骨 四十五度に折れにけり  
田のひとつまると冬の日向かな  
風呂吹きに甘辛味噌の匂ふかな  
着ぶくれの子らはパンダを囲みけり  
木の影の形に残る庭の霜  
曳き船に荷船に寒の日差しかな  
地に降りてふくら雀となりにけり  
冬草のひと叢あをき空地かな  
ひと握りほどの日溜り水仙花  
露の臺無人売り場に積まれけり

## ◇ 3月・4月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
3月	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	5日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
4月	1日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	1日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	4日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	4日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	7日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	19日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	20日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	戸田公園	丑久保 勲
	26日(土)	AM10:00	楽 天 会	中央公民館	廣瀬雅男
	27日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

4月20日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR埼京線戸田公園駅。

吟行地は戸田公園(ポート場)。句会場は 武蔵浦和コミセン第4集会室。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎048-862-2757 藤井美晴 ☎0422-55-2733  
 大島英昭 ☎048-592-5041 WEP編集室 ☎03-5368-1870  
 廣瀬雅男 ☎048-443-7522 浦和コミセン ☎048-887-6565  
 丑久保 勲 ☎048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ